鳥取大学ラボツアー第3弾！

鳥取大学ラボツアー

未利用生物資源活用研究センター

鳥取大学未利用生物資源活用研究センター（工学部・農学部）の６つの研究室を回るラボツアーを実施します
鳥取大学が持つ専門的な知見や研究内容を知り研究開発のタネを見つけにいきましょう

日時 2026年 12月2日(水) 13:00-16:00

募集定員 10名
＊各社申込２名まで
＊申込状況により、人数を調整させていただく可能性があります

場所 鳥取大学 鳥取キャンパス
（鳥取市湖山町南４丁目１０１番地）
●集合場所　Tottori uniQの建物1階 CDL室

キャンパスマップ

未利用生物資源活用研究センター

申込みフォーム

内容 6つの研究室を訪問！
研究室の研究内容等を紹介

【ラボツアー対象研究室】
（工学部）・生体触媒工学研究室　・有機材料化学研究室
・生物機能開発工学研究室
（農学部）・植物分子生物学研究室　・栄養科学研究室
・生命機能化学研究室
※詳細は裏面をご確認ください

申込み 申込期限 11月24日(火)
申込みフォームよりお申し込みください
※申込みフォームが利用できない場合は、問合せ先にご連絡ください
※鳥取県内に拠点を有する企業様が対象です

【問合せ先】
鳥取県商工労働部産業未来創造課
☎ 0857-26-7690　✉ sangyoumirai@pref.tottori.lg.jp

鳥取大学ラボツアー　検索

～鳥取県・鳥取大学研究推進機構・鳥取大学振興協力会　共催～

ラボツアー対象研究室

工学部

●生体触媒工学研究室（担当教員：岡本賢治教授）

未利用バイオマスを新しい価値へと変える研究を進めています。きのこが持つ独自の発酵力を活かし、多様な原料からのバイオエタノール生産や、高血圧・高血糖の改善に有望な機能をもつペプチドの発見につなげてきました。さらに、きのこ由来の抗酸化物質や環境にやさしい菌糸素材、酵母・カビによる物質変換を利用し、持続可能な技術の創出を目指しています。

●有機材料化学研究室（担当教員：吾郷万里子教授）

地球上に豊富に存在する天然高分子であり、未利用資源でもある木質成分「リグニン」の有効活用を目指し、機能性材料の開発に取り組んでいます。これまでに、リグニンの特性を活かした機能性炭素材料、乳化材料、表面コーティング材、接着剤などへの応用可能性を見いだしてきました。

また、近年では、鳥取県の陸上養殖産業の振興を目指し、水質分析や水質浄化材料の開発にも取り組んでいます。

鳥取県内の企業の皆様との共同研究を通じて、地域課題の解決や新たな技術・製品の開発に貢献したいと考えています。ご関心をお持ちの方は、ぜひお気軽にお声がけください。

●生物機能開発工学研究室（担当教員：八木寿梓准教授）

地域の未利用資源に付加価値を見出し、新たな素材としての可能性を探る研究を進めています。主に海藻や水産廃棄物を中心に研究を行っていますが、海だけでなく山も一体となって、地域のニーズに応えることを目指しています。食品，化成品，環境素材など幅広く展開しています。

農学部

●植物分子生物学研究室（担当教員：上中弘典教授）

地域の未利用資源を農業に活かす研究に取り組んでいます。これまでに、カニ殻やきのこ栽培の廃菌床、トルコギキョウの栽培残渣などの農業利用技術開発に取り組んできました。作物の生育・病徴評価、土壌微生物の分析などを得意としております。鳥取県内企業との共同研究を通して、地域貢献したいと考えていますので、是非お声かけください。

●栄養科学研究室（担当教員：藪田行哲教授）

動物倫理の観点からマウスをはじめとする実験動物の使用は減少傾向にあります。そのため私たちは線虫と呼ばれる小さな生物を用いて食品に含まれる機能性成分の評価を行っています。線虫を用いることで先にあげた動物倫理の問題を回避するだけでなく、顕微鏡を使った目視での評価ができることや実験コストを抑えることなど多くの利点があります。現在、鳥取県産の農作物などを使って線虫の寿命を延長させる物質を探索しており、その物質を同定することでそのメカニズムを解明し、ヒトでの効果を評価することを目標としています。材料を提供していただける企業さまを探しております。

●生命機能化学研究室（担当教員：有馬二朗教授）

カニ殻には「キチン」が含まれ、様々な機能を持つ物質として注目されています。私たちは、微生物や酵素の力を使ってカニ殻のアップサイクル（農業資材への応用、新たな素材への変換）に取り組んでいます。また、寒い環境でも働く微生物を利用して、魚や海藻を育てる技術を開発しています。このように自然の力を有効利用しながら、食料生産や環境問題の解決を目指しています。

未利用生物資源活用研究センター

未利用生物資源活用研究センターは、埋もれた未利用生物資源の新たな可能性を探り、価値ある機能性物質の抽出や新用途の開発を推進しています。産業の垣根を超えた連携と技術革新を通じて、地域産業の発展とSDGsの実現に貢献します。研究を通じて自然資源の活用と持続可能な未来を創造する拠点として活動しています。